



2017年の幕開け、大阪・梅田で開かれた写真展。
先輩写真家たちが詰めかけオープニングは大騒ぎ。
在校生の写専での成長を同級生、下級生たちが
誇らしげに見守る。61年の歴史ある写専の
暖かさがここにある。吉井脩人やったねえー。
吉井 哲司 × 千晶 × 達哉 × 基記 × 脩人

UP! SPECIAL HAPPY is FAMILY vol.32

UP! SPECIAL
HAPPY is
FAMILY

姫路から父と母が、
京都からは長男と次男が来た。



父と母は姫路から、京都からは2人の兄が来た。三男の個展会場にファミリーが揃う。会場に飾られた家族のポートレートに母は涙したという。母の愛の深さが彼の土壌であることは間違いない。会場で2人きりであれば彼女は息子を抱きしめただろう。

2017年1月26日、大阪・梅田の芝田町
画廊で写真学科2年生の吉井脩人君(20)が写
真展を開催した。初日のオープニングには活躍
中の写真家たちが大勢駆けつけて、吉井君の写
専での成長と、今後の活躍を期待してのパ
ーティが開かれた。ずらりと並んだ32点の作品
の1番目には、卒業生でもあり、現在デヴィッ
ト・ボウイの写真展が、世界中で開催中の写真
家・勳田正義氏の応援メッセージも掛けられて
いた。ボクもそうだったが、自分を信じて前へ
前へ」勳田氏のメッセージはなんと温かいのだ
ろう。吉井君はすでに東京(パレード・アマ
ン)に就職が決定している。

会場には家族が集まった。お父さん(哲司..
57)お母さん(千晶..56)長男(達哉..26)次男(基
記..24)の溢れる笑顔。そのなかで脩人君が語
る「写専の2年間はあつという間でした。学校
の近くに住んでいたの、学校と家の距離しか
行動範囲がなかったんですよ(笑)そんなボク
に、もっと視界を広くしないとけないって校
長先生が美術館、ギャラリー、セミナー、イタ
リアンレストランといろんなところに連れて
行ってくれました。美術だけでなくフアッ
ションも教えてくれました。写真以外の表現に
驚きと興奮を植え付けてくれました。この栄
源は大きかったです」

1年前、撮影用に赤ちゃんのヘビを買って「き
なこ」と名をつけたようだ。わずか10cmのヘ
ビが今では30cmにも成長したとか。「ヘビの
模様、動きがおもしろいです。最初は撮影は
かりでしたが、最近では話しかけて会話を楽し
んでいます。お腹が空くとシュッ、シュッと音
を出して威嚇してくるんですよ。コフヤローッ
てやり返すんですけどね(笑)」この仲間のヘ
ビの写真も会場に飾られていた。クラスメイト
が作ったコーンスープをすすりながら「スー
プがおいしい。今日はありがとう。照れたよう
な声であったがスープよりも温かった。」

写真は人を感動させる。その感動させる写真
は人が撮る。前に進めば、すべてのものは凍解
氷積である。(は)